令和４年度　学校だより（No.６）　　令和４年９月３０日

10 月号　鳥が丘　横浜市立鳥が丘小学校

# 語り合って深める…

教務主任　　森内 優

**「１＋１の答えは？」　「鎌倉幕府を創建したのは誰？」**

こんな問いを担任している６年生に投げかけると、「答えは２！」「源頼朝！」と即座に答えが返ってきます。こうした問いには明確な答えが存在し、多くの人が知る事実となっています。では、次のような問いはどうでしょうか？

**「多数決は、人数が多い方が正しい意見（決定事項）として扱われる。多数決って本当に正しい決め方だと言えるの？」**

上述の問いは、６年生の道徳科で取り組んだ「モラルジレンマ」の一例です。このような明確な答えのない問いに対し、子どもたちはいろいろなことを考えます。「話し合って決めないと、納得いかない！」－「話し合ってばかりでも決まらない！」「一人ひとりの意見が大切！」－「多数決で手を挙げることも意見を言っているのと同じでは？」…子どもたちの考えは尽きません。ワークシートには十人十色というべき考えやその子なりの答えが書かれています。

こうした学習で大切にしていることは、一つの答えや結論を導き出すことではありません。自分自身の考えをもつとともに、それらを**対話（交流）**を通して広げたり深めたりすることです。友達の意見を聞いて、「そんな見方もあったのか！」と考えが変わる子もいるでしょう。「いや、やっぱり自分の答えはこれしかない！」と、考えをより堅固なものにすることもあるでしょう。対話を通して、**自分なりの価値や答えを見出すこと**こそが肝要なのです。

子どもたちがこれから生きていく社会は「Society 5.0 = 超スマートな社会」と言われています。この「Society 5.0」において求められる力とされているのが、次の３つです。

・文章や情報を正確に読み解き**対話する力**
・科学的に思考・吟味し活用する力
・**価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力**

日々の学習を通してこうした力を子どもたちに育んでいくには、どのような授業展開がよいのか、どのような手立てが考えられるのか…まさに明確な答えのない問いばかりです。しかし、私たち職員が試行錯誤する中で、少しずつ見えてくるものがあると思います。子どもたちに負けないよう、私たち大人も本気で考えてみたいものです。

最近は暑さも和らぎ、秋の到来が感じられるようになってきました。秋の夜長に、ご家庭で、地域で、お子さんや周りの方と「答えのない問い」について語り合ってみるのはいかがでしょうか？